

教育部会用自己点検・評価報告書（様式1）

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会会）

教育部会名：健康・スポーツ科学

部会長名：前田 正登

作成者名：前田 正登

概要（2000字）

（1）組織・運営について

平成28年度の健康・スポーツ科学教育部会は、人間発達環境学研究科18名（内1名は後期から）、海事科学研究科2名、保健学研究科17名および科学技術イノベーション研究科1名で合計38名の構成であった。本年度より健康・スポーツ科学講義を担当する教員が増えたこともあり、前年度より10名多い38名で構成された。本年度は、部会長のほか幹事が3名と技術補佐員1名の体制で運営にあたった。

（2）実施状況について

健康・スポーツ科学教育部会としては、前期に「健康・スポーツ科学実習基礎1」及び「健康・スポーツ科学実習基礎2」、後期に「健康・スポーツ科学実習1」及び「健康・スポーツ科学実習2」の4つの実習科目、及び「健康・スポーツ科学講義A」、「健康・スポーツ科学講義B」、「健康・スポーツ科学講義C」の3つの講義科目の合計7科目を開講している。健康・スポーツ科学は、身体と健康・運動に関する学問を学際的な視野のもとで総合化した新しい総合人間科学であり、開設されている7科目の実習及び講義を通して、身体運動と人体の機能・能力との関わりについての知識、安全で効果的かつ効率のよい身体運動について、及び生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識と実践能力を習得することを目標にしている。

健康・スポーツ科学実習基礎1及び同実習基礎2は、全学共通授業科目として、学部ごとに月曜から木曜日まで12の曜限枠を設定（一部複数学部から構成）し、1枠あたり3～6クラス（コース）、計55コースとして前期第1クォーター及び第2クォーターに開講した。一方、健康・スポーツ科学実習1及び同実習2は、実習基礎1及び実習基礎2と同様に、後期月曜から木曜日まで9の曜限枠を設定し、計33コースを開講した。これらの実習科目では、教育効果、安全性の確保、教場の条件などから、最大限1クラス40名を目安に設定している。健康・スポーツ科学実習の理念・シラバス・評価等について担当教員のすべてが共通の観点を持つために、健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料（教員用）を作成し、各教員の専門性を活かしながら効果的な実習を展開している。また、第1回目（初回）の授業ガイダンスで、ガイダンス資料をもとに、健康・スポーツ科学の学修目標、及び当該科目の目標、成績評価の方法などを受講学生に周知するとともに、本年度からは履修登録の手続きも行った。

健康・スポーツ科学講義は、本年度より「健康・スポーツ科学講義A」、「健康・スポーツ科学講義B」及び「健康・スポーツ科学講義C」（いずれも全8週の授業で1単位）の3つを前期第2クォーター1枠、後期第3クォーター3枠のそれぞれの時限枠で並立開設し、学生にはいずれかを選択して履修させる形式に変更した。ただし、本年度は移行措置として、「健康・スポーツ科学講義C」のみ前期第1クォーター及び後期第4クォーターに開設し「健康・スポーツ科学講義A」と合わせて履修することで、従来まで開設していた「健康・スポーツ科学講義」（2単位）の読み替えとした。

「健康・スポーツ科学講義A」では、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識や実践能力について、「健康・スポーツ科学講義B」では、健康で心豊かな生活を送るためにはどうすれば良いかといった自分でできる健康管理について、「健康・スポーツ科学講義C」では、スポーツ活動や日常の身体運動に関してスポーツ科学の中の生

理学、心理学、及び社会学の各側面から、それぞれ講義した。

◎運営にあたって今年度工夫した点

1) 外部評価の実施

本年度は、各教育部会が毎年持ち回りにより実施してきた外部評価を実施する順番であった。外部評価は今回から2順目となることから、前回の指摘事項への対応も含め1回目の外部評価以降の教育部会の運営や教育内容及び方法等について、事前に作成・送付した資料及び外部評価委員会当日の資料をもとに、3名の外部評価委員より様々な指摘と評価を受けた。8年前の外部評価の時よりもティーチングスキルや学生対応が向上しているとの評価が得られた一方で、実習授業について成績評価の観点及びそれらの割合に関して再検討が必要であるとの指摘や、運営については中長期にわたる計画を策定して比較的近い将来を展望しながら運営にあたる必要があるとの助言があった。今後の健康・スポーツ科学を考える上で有意義な外部評価を実施することができた。

2) FD研修会の実施

3月10日(金)に、平成28年度神戸大学全学共通教育部健康・スポーツ科学実習FD研修会兼オリエンテーションを開催した。出席者は藤田機構長、大野院長、専任教員8名、非常勤教員9名および技術補佐員の計20名であった。はじめに、藤田機構長より「神戸大学の教育改革について」の講演があった。続いて、大野院長より「本学の全学共通教育について」の講演をいただいた。本年度は例年とスタイルを変え、FD討論会として、前田部会長が「クォーター制の下での健康・スポーツ科学の授業－課題と解決の糸口－」として提起した後、参加者と議論し意見交換を行った。

本年度からクォーター制の下で各種健康・スポーツ科学の授業を行ったが、実際に授業を行って行く中でいくつかの問題が生じていた。これらの問題点は早急に解決しなければならないことであるが、そのためにはこの討論会での議論は極めて有意義であり、次年度以降の当部会の取り組みに非常に参考になるものであった。

なお、FD討論会の後、次年度に向けてのオリエンテーションを、配付した「平成29年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料(教員用)」に沿って行った。

3) 体力テストの継続的实施

本年度も引き続き、実習基礎1及び実習基礎2の一環で、法学部及び経営学部、医学部医学科の一部を除く学生(男子1,679名、女子879名、合計2,558名)を対象に体力テストを実施した。1年次生を中心に、18~19歳の大学生における現在の体力を掌握できたことは、実習授業を行って行く上で貴重な資料となるだけでなく、学生自身にも自分の身体を知ることにもなり有益であった。

なお、体力テストはこの5年間継続して実施しており、過去5年間の体力推移はデータとして蓄積している。これらの推移には、女子で20mシャトルランの成績がやや向上している、あるいは、男子でハンドボール投げがやや低下している等の特徴がみられており、これらの点を含め今後も学生の体力について注視していく必要がある。

(3) 総括と今後の課題

本年度は、2学期クォーター制の実施初年度に当たり、解決すべき課題が明らかとなった。外部評価においても関連する指摘があり、それら課題は次年度以降に早急に対応すべきである。また、体育館をはじめとする諸施設は老朽化が著しく、修繕を要する箇所が年々増えている。特に、多くの教員から第2体育館の雨漏りに関する苦情や改善を求める声が上がっており、できる限り早急に改善する必要があるが、予算が縮小されていることもあり解決し難い問題となっている。これらのように、いくつかの課題もある中で、継続して測定してきた体力テストのデータをから、神戸大学生の体格や体力を年度推移としてみるができるようになりつつあることは、神戸大学生の健康・体力について考える上で重要な基盤が出来つつあると考えられ、これら体格・体力データの今後の活用が期待される。

項目・観点ごとの記述

基準5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

観点に係る状況（150字以上）

実習においては、学生の選好に応じてスポーツ種目が選べるようになっており、また、昨今の子どもの体力の2極化問題を考慮して、学生自らが積極的に健康・体力の維持増進に取り組めるよう授業の中で体力テストを実施している。講義においても、学生生活として身近な問題となる「ライフスタイルと健康」や「食と健康」、「睡眠と健康」「ストレスと健康」、「環境と健康」、「エイズ予防」を講義のテーマに取り上げ、これらの分野に関する啓蒙を実施してきている。

根拠資料

- 平成28年度 シラバス
- 健康・スポーツ科学 実習ノート
- 基礎としての健康科学 / 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 健康科学研究会 編：大修館書店，2007，ISBN:978-4-469-26630-6

5-2 【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150字以上）

健康・スポーツ科学実習基礎においては、歩数計や運動時の心拍数を計測することにより、運動時エネルギー消費や運動の生理的負担等を実測させている。また、各スポーツ種目を教材とした実習では、グループに分けての指導を実施し、その場合はTAを活用して指導が充実するよう配慮している。さらに、実習・講義ともビデオ・DVD等を活用して、学生の理解が深まるよう工夫している。

根拠資料

- 健康・スポーツ科学 実習ノート

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100字以上）

実習の授業では授業開始時に出席を厳格にとり、遅刻や早退についても教育部会独自の基準で学生に対応し、厳正な評価を行っている。また、「評価の対象」や「評価の基準」を初回ガイダンス時に学生に説明し周知している。

根拠資料

- 平成28年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料（教員用）
- 履修カード

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

観点に係る状況（50字以上）

健康・スポーツ科学実習基礎1及び実習基礎2、及び、ほとんどの健康・スポーツ科学講義は、授業内容の共通化を図るため、シラバスを共通としている。なお、実習基礎のシラバスは、学修目標はもちろん内容も共通化を図るとともに、実態に即して各スポーツ種目に応じた内容も盛り込めるように一部を自由化したものとなっている。

根拠資料

- 平成28年度シラバス
- 平成28年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料（教員用）

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）

実習授業では、授業運営が困難になるほど学生の基礎学力不足を感じる場面はほとんどなく、むしろ、体力面で受講している学生の平均レベルよりも著しく劣る学生がいることがある。健康・スポーツ科学実習基礎1及び実習基礎2では、そのような学生でもできる身体運動を「実習ノート」により紹介し指導している。

根拠資料

- 健康・スポーツ科学 実習ノート

5-3【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上）

健康・スポーツ科学実習の成績評価は、課題達成度、受講態度、出席状況（75%以上の出席）の3点を総合的に評価することにより行っている。受講学生には、毎期の初回授業で行われるガイダンスで、これらの評価観点を説明し周知している。また、同講義においてもシラバス記載の基準をガイダンスで説明し、その上で授業を進めている。

根拠資料

- 平成28年度 健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料（教員用）
- 履修カード（学生の写真付）

5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100字以上）

健康・スポーツ科学実習では、成績評価について①評価基準、②評価の対象、及び③評価の観点として、それぞれガイドラインを設けており、年度ごとに前年度末ごろに実施される健康・スポーツ科学実習オリエンテーションにて確認している。

根拠資料

- 平成28年度 健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料（教員用）

基準6 学習成果

6-1 【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100字以上） 健康・スポーツ科学実習に対する学生の授業評価は良好で、総合評価が4点以上であるコースが大半を占める。一方、健康・スポーツ科学講義のそれはやや低く、さらなる工夫が必要であると考えられる。昨年度も同様の課題であったが、学生からの評価をどのようにして各教員の授業に反映させていくか、その仕組みの再検討が必要である。
根拠資料 ● 平成28年度 学生の授業評価アンケート ● 平成28年度 各教員の自己点検・評価

基準7 施設・設備及び学生支援

7-1 【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50字以上） キャンパス内で自主的に運動が行える施設は整えていないが、実習授業時には、家庭でもできる内容の運動を教材に取り上げることで、課外活動時や自宅でも実践できるように指導している。
根拠資料 ● 健康・スポーツ科学 実習ノート

7-2 【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習や課外活動等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上） 前期健康・スポーツ科学実習基礎の初回であるガイダンス時に、健康・スポーツ科学として開設している実習4科目及び講義3科目について、必修・選択の別、卒業要件に算入できるか否かなどを説明している。また、実習授業ではスポーツ種目について選択ができるようになっているが、これも初回ガイダンス時に授業内容を説明の上、選択できるようにしている。
根拠資料 ● 平成28年度 健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料（教員用） ● 平成28年度 シラバス

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。
また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切

に行うことのできる状況にあり，必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）

実習授業ではスポーツ種目について選択ができるようになっているが，提供するスポーツ種目は年度ごとに検討することとしており，前年度の学生の履修状況を勘案しながら時間割を作成する際に反映するようにしている。また，実習授業では身体運動を伴うことから，身体運動を行う際に支援が必要となる学生が履修していた場合は，当該授業にTAを優先的に配置するようにしている。

根拠資料

- 平成 28 年度履修学生数一覧
- 平成 28 年度健康・スポーツ科学実習時間割